

皆さまこんにちは。暑さにめっぽう弱い宮本です。

浦臼町へ移住してから早くも4か月が経ち、初めての夏を迎えています。

6月号では浦臼町への派遣の経緯や、暮らし始めて感じたことを書かせていただきました。

今回は、この町で迎える夏や風景のことについてお伝えしたいと思います。

☆夏到来

暑いだろうと覚悟はしていたのですが、想像以上で早くもバテそうです。

朝から強い日差しが照りつける日は、少し外を歩いただけで汗が止まりません。

以前は、夏場の平均気温が22度と言われている「涼しいまち・釧路市」に住んでいたため、この環境の変化に体がまだ追いつかず、半袖の服もあまり持っていなかったのが急いで買い足しました。

夜は少し気温が下がるので、窓を開けて寝ています。

釧路で窓を開けて寝ると部屋の湿度が一気に上がり、カビが生えやすくなるので、対策として押入れに「水とりぞうさん」を8個も置いていました。

こちらに来てからは湿気を気にすることが少なくなったので、その点はとても助かっています。

☆田園風景

毎日のように見る町の景色も大きく変わってきました。

青空の下に広がる田園風景が、とても開放感があり、車を走らせる度に思わず見入ってしまいます。

以前住んでいた場所にも自然はたくさんありましたが、見慣れていたのは海や畑地の景色で、一面に広がる田んぼは私にとってはすごく新鮮に映ります。

今の鮮やかな緑が広がる景色も素敵ですが、田植えを終えたばかりの水面に空や山が映り込むのも印象的でした。

秋には黄金色へと姿を変えていくのですね。季節の移ろいとともに風景がどのように変化していくのか、今からとても楽しみにしています。



(田植え直後の田んぼ)

何気ない日常の中で、ふと車を止めて眺めたいような景色があることは、とても贅沢なことだと感じます。浦臼町ならではの風景や暮らしをこれからもゆっくり味わっていきたいと思います。

＼ ひとこと ／

今年の夏は暑さ対策をしながら、浦臼町の景色や自然を楽しみ、地域の皆さんとともに元気に過ごしていきたいと思います。

＼ 好きな一枚 ／

豆乳ソフトクリーム

ヘルシー食品物産館で買いました。

知覚過敏ですが、気にせずかぶりついて食べました！



☆うらうすちょう 地域おこし協力隊／

活動報告

今月の隊員
刑部 広平さん



浦臼町地域おこし協力隊の刑部おしかべです。私は浦臼町地域おこし協力隊として、鶴沼公園キャンプ場の管理運営を中心に、町の自然や地域資源を生かしたにぎわいづくりに取り組んでいます。

日々の業務では、キャンプ場利用者の受付や施設管理、場内整備などを行っています。キャンプ場は、町外から訪れる方が浦臼町と最初に接する場所の一つでもあります。そのため、利用者が安全で快適に過ごせる環境を整えることはもちろん、滞在中に浦臼町の魅力を感じてもらい、「また訪れたい」と思ってもらえる場所づくりを大切にしています。

管理棟では、浦臼町内の事業者様から譲り受けた水槽を活用し、キャンプ場周辺に生息する生き物の展示を行っています。

水槽をのぞき込む子どもたちや、展示されている生き物について会話を交わす家族の姿も見られます。

キャンプを楽しむだけでなく、周辺の自然環境や生態に関心を持ってもらうきっかけをつくることも、キャンプ場の新たな役割の一つだと考えています。地域の事業者様の協力を得ながら活動を形にできたことは、地域内の連携という面でも大きな意義がありました。

また、キャンプ場の課題の一つである平日の利用率向上に向けた取り組みも進めています。その一環として、空知管内で活動する地域おこし協力隊や関係者を対象に、キャンプ場を会場とした交流企画を実施しました。地元の食材を使った料理や焚き火を囲みながら、それぞれの地域での活動や課題について情報交換を行いました。

普段は利用が少なくなりやすい平日に人が集まる目的をつくることで、施設の新しい活用方法を試す機会にもなりました。

今後は、キャンプ場利用者を対象とした「星を見る会」など、浦臼町の夜空や自然を楽しめる企画にも取り組んでいきます。キャンプ場で過ごす時間に、星空観察や自然体験などの小さな楽しみを加えることで、滞在の満足度を高め、浦臼町ならではの思い出を持ち帰ってほしいと考えています。

これからも町民の皆様や町内事業者、地域で活動する方々と連携しながら、鶴沼公園キャンプ場を、泊まるための場所ではなく、地域の自然を知り、人と人がつながり、新しい交流が生まれる場所へと育てていきたいと思っています。



【生き物の展示】



【キャンプ場の様子】